

なかとんべつ 町議会だより

Volume

181

平成25年7月25日発行



短い夏を楽しもう！町民ソフトボール大会（7月7日）

第2回定例会議決結果の一覧	3
私たちの一般質問	4
報告事項	8
承認・議決された条例・予算、議員だより	9
管内議員研修会報告・議会の動き・あとかき	10



第2回 定例会

待望の光通信網整備
市街地エリア降雪時期までに
国保病院長交代
伊藤斉院長退職、
後任は柴中光一医師

平成25年第2回定例会が、6月17日招集されました。

野呂町長は、冒頭の行政報告で以下の3点を報告しました。

1. 光通信網の整備について、5月21日役場会議室において、「光回線整備に関する要望書」を㈱NTT東日本北海道旭川支店長に提出し、支店長より、「要望を踏まえて降雪時期までに整備を進めたい」との考えが示された。
2. 行方不明者捜索について、6月7日夕方、敏音知地区においてタケノコ採りの町民1名が行方不明になり、急遽、捜索隊を編成して捜索したが発見に至らず、翌8日5時から、町職員、警察、消防、一般町民ら約100名で捜索を開始したところ、午前5時23分無事発見、保護した。
3. 国保病院長の交代について、平成22年6月から勤務された伊藤斉院長が一身上の都合により6月末日をもって退職されることになった。後任には、6月1日付けで柴中光一医師を採用した。

一般質問では、通告順に6議員が「消防団の充実強化の取り組み」、「中学校の耐震化」、「町職員の採用計画」、「農業の6次産業化」、「民間アパート建設補助」、「福祉施設の拡大」などの質問を行いました。

報告案件では、予算を翌年度に繰り越して使う繰越明許費の報告のほか、町が資本金を出資している「中頓別観光開発株式会社」「有限会社中頓別振興公社」の経営状況報告も行われました。

町長から提案された条例案など4件、一般会計など2会計の補正予算案、議員により発議された「地方交付税削減に反対する意見書」をいずれも原案どおり可決し、全日程が終了したため、会期を1日残して17日に閉会しました。

第2回定例会で 決まりました



議決結果の一覧

- 議案第40号 子宮頸がん・インフルエンザ菌b型(Hib)及び小児用肺炎球菌予防接種費用助成に関する条例を廃止する条例
- 議案第41号 戸籍事務の一部委託に関する協議
- 議案第42号 北海道市町村総合事務組合規約の変更
- 議案第43号 北海道市町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更
- 議案第44号 平成25年度一般会計補正予算
- 議案第45号 平成25年度自動車学校事業特別会計補正予算
- 発議第4号 地方交付税削減に反対する意見書
- ※ ○ は原案可決
- 承認第1号 税条例の一部を改正する条例(3月31日専決処分)
- 承認第2号 国民健康保険税条例の一部を改正する条例(3月31日専決処分)
- ※ ○ は承認
- ※ 以下は報告案件
- 報告第2号 平成24年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告
- 報告第3号 中頓別観光開発株式会社の経営状況報告
- 報告第4号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告

諮問第1号 人権擁護委員候補者に対する意見

石井英正氏

諮問第2号 人権擁護委員候補者に対する意見

藤田淳磨氏

任期満了に伴い町長が推薦する人権擁護委員について、議会の意見を求められたことに関して、2名の候補者に対していずれも適任であるとの答申をしました。

(任期3年 平成25年6月25日)

～平成28年6月24日

選挙第1号 選挙管理委員会委員補充員の選挙

選挙管理委員と同数(4名)の補充員については、地方公共団体の議会において選挙されるものですが、委員への補欠(1名)、辞任(3名)により、全ていなくなつたことが選挙管理委員会委員長から通知されたため、議会において選挙の結果、次の4氏が当選されました。

補充員は、委員に欠員が生じたときに、選挙管理委員長が補欠するもので、順位が上位の者から補欠されます。

順位	1	2	3	4
	丸山博光氏	平中静江氏	相馬祥子氏	ボーセン仁美氏

(任期 前任者の残任期間)

平成25年6月18日
～平成26年6月28日

議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な「しゃべり場」です。議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

ホームページで議事録などを公開しています

町のホームページ (<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp>) で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。町ホームページから(議会)へ進みご覧ください。

議会日程や傍聴の手続き、請願・陳情などのお問合せは、Tel6-2244 (議会事務局) へ。

ここが聞きたい、知りたい

私たちの一般質問

細谷久雄 議員

質問

●地域防災における消防団への今後の取り組みは

消防団は、町民の生命と財産を守るため日夜厳しい訓練を行い、防災意識の向上と地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしている。しかし、地域内の若年層の減少や団員の高齢化に伴って消防団員数が減少し、地域の消防力の低下が危惧される。

現在、町職員の消防団加入状況はどうなっているか、今後の加入促進策を伺う。

答 弁 ○野邑町長

現在、町職員では管理職で2名、一般職で6名の計8名が消防団に加入している。

消防に関する事務は、南宗谷消防組合で共同処理されており、当町には事務権限はないが、これまでも消防団長からの申出により、職員の消防団の加入について協力をしてきたので、今後必要があれば協力してまいりたい。



5月19日 春季消防演習

質問

●火災予防対策は進んでいるのか

2004年6月の消防法の改正により、全ての住宅に火災警報器設置が義務付けられているが、既存住宅の設置については罰則が無いのが現状である。全国的に住宅火災による犠牲者の大半が65歳以上の高齢者である。

本町における火災警報器の普及率は98・9%だが、未設置の既存住宅について今後どのように周知徹底しているのか伺う。

答 弁 ○野邑町長

未設置の世帯には、今後も防火査察等を通じて設置をお願いすることとされており、町としてもできることがあれば協力してまいりたい。

さらに、公営住宅解体時の火災警報器を保管しているため、必要な方がいれば貸出ししたい。

本多夕紀江 議員

質問

●中学校の耐震化、老朽化対策について

中学校の耐震化不足や老朽化対策は根本的な整備方針の確立が急務との提言書が昨年8月に出された。総合計画でも最重要課題の位置付けである。新たに検討委員会を作り、整備のあり方を検討することだが、耐震化不足、老朽化、生徒数の減少など、状況ははっきりしており、教育委員会として基本方針を決定すべき。状況から見ても新築しかないと考えるが、検討委員会では新築を前提として何をどうするか議論すべき。もっとスピード感を持って対応すべきである。

答 弁 ○青木教育次長

中頓別中学校は、建設以来45年が経過し、改修工事も行っているが、耐震化不足だけでなく全体的な老朽化も進んでいる。また、体育館は平成23年度に耐震化工事を行ったが、これにより耐用年数が伸びたわけではない。

提言書は考え方を示したもので、新築という具体的な整備方針が示されたものではない。

6月中旬に「教育関連施設整備基本計画検討委員会」を設置し、多くの観点から整備のあり方を議論していただき、状況を勘案しながら、できるだけ早い時期に方向性を見出したい。

答 弁 ○米屋教育長

学校は、地域コミュニティの核や防災拠点などいろいろな役割を持つ重要な施設。少子化に伴い小中一貫教育など教育方法のこともある。他の文教施設との関連を考えながらさまざまな意見を聞き、計画的・効率的に整備しなければならぬ。



老朽化が進む中頓別中学校

質問

●公営住宅FFストーブ排気口を高い位置に付け替えるべき

現在の排気口の位置はストーブと同じ高さであり、とても積雪地帯に合っているとは思えない。雪が降る前にもっと高い安全な所に付け替え、安心して冬を迎えられるようにすべきと考える。とくに、高齢者向け住宅に入居されている方々は、住み慣れた自宅を離れ、安全・安心を求めて入居された方がほとんどである。命に関わる問題であり、入居者の意見を聴くまでもないことである。猛吹雪の後、排気口の様子を見に行ったことはあるのか。付け替える決断できない理由は何か。

答 弁 ○中産業建設課長

FFストーブを設置している公営住宅は建設後十数年経つが、給排気口のことを入居者からの問い合わせや改善の要望はなかった。本年3月に西団地老人単身者向け住宅の入居者から給排気口を高くしてほしいという要望があった。

猛吹雪の後の様子は確認していない。西団地、あかね団地、小頓別団地全ての現状を確認していないので実態を調べ、必要性があれば改善したい。西団地については高くすべく検討している。

星川 三喜男 議員

質問

●子宮頸がんワクチンの副作用について

厚生労働省は5月16日のワクチンの安全性についての専門部会で、ワクチンの接種後に発熱・失神といった副作用が2009年の販売開始から今年3月までに計1968件に上ることを明らかにした。本町ではワクチン接種を奨励するため、平成22年度から助成を行っており、万が一子供達に副作用が出れば町の責任は重大である。

本町でのこれまでのワクチン接種者の数と異常の届出がないか。届出がないとしても早急に聞き取り調査をすべきと考えるがいかがか。

また、今後、国はワクチン接種を奨励しないという報道があったが、国、保健所から指示・指導等はあるのか。

答 弁 ○小林保健福祉課長

子宮頸がんワクチンは平成22年度から昨年度まで33名が接種しているが、この間で副反応の報告はない。聞き取り調査については検討する。

市町村に正式通知はないが、厚生労働省から都道府県に対して、積極的勧奨はしないが、定期予防接種の機会を確保する。医療機関に対しては、積極的勧奨はしていないこと、安全性、リスクを接種希望者に説明した上で接種するよう通知がされている。



職員採用 来年度は1名

質問

●来年度の職員採用について

旬報では来年度の大学卒の採用予定を一名と募集しているが、この採用は定年退職の補充か、勧奨退職によるものか。勧奨であるとすれば、公務への影響が心配されるが、全体の採用計画をどのように考えているのか伺う。

答 弁 ○和田総務課長

平成26年度の新規採用については、宗谷町村会の採用試験合格者を対象に上級（大卒者）一名を計画しており、初級及び消防職については、採用予定はない。

退職は勧奨退職であり、ベテラン職員が退職するということで公務への影響は大きいと考える。慰留に努めたが説得にいたらなかった。

柳澤 雅宏 議員

質問

●国家公務員に準じた職員給与の削減について

東日本大震災復興に資するため国家公務員は平成24、25年の2カ年で平均7・8%の給与削減をしている。これに準じて地方公務員にも給与の削減を求めていることに対して、5月31日の北海道新聞で全道市町村の対応状況が報道されたが、地方の自主財源である地方交付税から人件費相当分を削減してまで強制すべきことではないと考えるが、職員給与削減の有無と今後の対応について伺う。

答 弁 ○和田総務課長

国は、ラスパイルズ指数100を超える地方公共団体に対して、本年7月から100以下とするよう給料等の削減を求めている。

現段階の試算では、本町への地方交付税の影響額は1千900万円減額になると推計されるが、平成18年度から25年度までの8年間に1億6千546万円にのぼる人件費を独自削減している。今後も役職加算の凍結や管理職手当での定額制等による対応で、年間1千146万円の削減を続ける。住民に迷惑がかからないようにしたいと考えているので、国家公務員に準じた職員給与の削減は考えていない。



牛乳は豊富な地域資源

質 問

●農業の6次産業化と地産地消について

町政執行方針では、「魅力ある農村づくりを図るため、牛乳などの地域資源を活用した6次産業化の推進をめざし関係者との協議検討の場を設置する」と表明されたが、協議検討の場は設置されたのか現状を伺う。

また、第7期総合計画では学校給食等で農産物の地産地消を図るべく取り組みを進めると明記されており、本年度はどの程度まで進めるのか伺う。また、5年計画のプロジェクトの当初3年間、農業改良普及センターが中心になって事業を進めてきた。いつまでも普及センターまかせではなく、今後、町が自ら体制を確立していかなければならぬと考えるが、この担い手対策をどうするのか。

答 弁 ○中産業建設課主幹

検討委員会の設置について、総合開発委員、農協職員による検討準備会を5月1日に開催し、検討委員の構成や検討内容・スケジュールについて協議を行っている。検討委員には総合開発委員や農業者、農業関係団体、商工会等を予定しており、早急に検討会を設立し、検討をスタートさせる予定である。

学校給食等での農産物の地産地消の取り組みは、『中頓別町地域内農産物生産と給食を結びプロジェクト推進協議会』において、平成22年度から事業を進めている。具体的には、天北厚生園多機能事業所の農園内に実証ほ場を設け、無農薬・減化学肥料のジャガイモやタマネギ等を栽培し、平成23年度から試験的に町内5箇所の給食施設へ提供している。23年度は年1回、24年度は年2回の提供を行っている。25年度においては、各給食施設へ年2回の提供を予定しているほか、中頓別小学校の収穫体験及び収穫物の給食利用や町民向けほ場公開デーの開催などを予定している。

答 弁 ○野邑町長

給食プロジェクトの担い手について、土地を主体的に利用している天北厚生園の施設長に対して、プロジェクト終了後も、多機能作業所として地元の人達に農産物が提供できるように規模拡大を図ってもらうよう要請している。



建設が始まった民間アパート

宮崎 泰宗 議員

質 問

●民間アパートの建設補助について

民間アパート建設への補助金条例がスタートしたが次の3点について伺う。

- ① 条例制定時に町有地と個人の土地、候補地が2つあると聞いていたが、今回、個人の土地が選ばれた理由は何か。この土地は、昨年の3月、町が購入をしようとしながら、その理由と土地の情報の不十分さから、議会が修正削除した土地と同じ所有者の土地であり、ともに抵当権が設定されていたものを今回事業者が購入したことは偶然と言えるのか。
- ② 建物について、1LDKと2LDK、2種類の間取りを予定しているということだが、助成額はいくらになるのか。

③ 事業者について、製箸事業において補助金を受けたが、天そげ箸の製造販売が行われていないことを1年前にも指摘したが、再開されたのか。

答 弁 ○野邑町長

① 土地について、町としては町有地であるあかね団地側を薦めた。役場側の土地について、町が関与したことは無いので、購入費についても把握していない。土地取得手続きの一切については、稚内信金が進めてきたことであり、役場側の土地を薦めた理由は、より人通りが多いところの方が建物の宣伝にもつながるといふことであつたと聴いている。

答 弁 ○中原産業建設課長

② 助成条例に基づく認定申請は、確認済証の交付後に行うことになるが、当該法人から整備内容や手続きに関する事前協議はされている。

建設場所は、役場庁舎と旧宮林署庁舎の間で、1棟4戸（1LDK2戸、2LDK2戸）を2棟建設する内容である。

工事費総額が事前協議の内容通り7千700万円以上になるとしたら助成額は2千400万である。

答 弁 ○遠藤まちづくり推進課長

③ 天そげ箸の製造が再開されたとは聴いていない。できるだけ早く再開していただきたいと思う。今後の推移を見守っていく。

東海林 繁 幸 議員

質 問

●行政運営と福祉施設の係わりについて

この町の将来は、福祉施設の増設、拡大による、利用者と介護者を含めた施設関係者による人口の維持、経済活性化であると期待している。

一方、施設運営について、利用者増には施設設備や住民利用者に対する町費の負担が伴い、これをどう判断しているのか。拡充の考えはあるのか伺う。

答 弁 ○野邑町長

これまで福祉施設に対しては施設建設に係る費用以外の負担はしておらず、基本的には今後も同様であると考えている。ただ、町が設置し運営を委託しているデイサービスセンターと訪問介護サービスセンターについては不採算分を委託料として支出している。



老人ホーム 長寿園

しかし、介護保険会計では、介護給付費で12・5%〜19・75%の負担割合が発生し、年々増加傾向にあり、福祉施設の増設や拡張により町民の利用が多くなれば、町の財政や個人負担に影響があるものと考ええる。

運営する福祉法人の考えがあれば協力したい。

質 問

●エゾシカ駆除後の処理対策について

本年の駆除目標が500頭と大きな数になったが、これを受けて、残滓処理をどうするのか、また、肉の活用は検討されているのか伺う。

答 弁 ○平中産業建設課主幹

エゾシカの捕獲頭数は、平成23年度260頭、平成24年度453頭と大幅に増加しており、国の平成24年度補正予算による『鳥獣被害緊急捕獲等対策事業』の実施にあたり、年間500頭の目標を設定した。捕獲したエゾシカの処理については、平成25年度では従来どおり捕獲者による現地処理対応とさせていただくこととしている。

今後の残滓処理については、平成25年度に施設整備に対する検討協議を行い、平成26年度設置というスケジュールで検討している。4月25日に猟友会や農業団体等による準備会を開催し、検討会の構成員や検討内容・スケジュールについて協議を行っている。6月中に検討会を設立し、具体的な施設整備の方向性や運営方法等について協議を進めることにしている。

食肉加工には非常に規制が多く、活用は現時点では検討していない。

議員発議により提出された意見書を全会一致で採択しました。

『地方交付税削減に反対する意見書』

平成25年度地方公務員給与の7月からの引下げを前提とした改正地方交付税法が去る3月29日成立したところであります。

使途の自由な地方交付税を減額し、使途に縛りのある財政措置に置き換えることは自治体の自由裁量枠を著しく制限するだけでなく、地方分権を否定する行為であります。

そもそも地方公務員の給与は、公平・中立な知見を踏まえつつ住民の意思や議会の同意に基づき地方が自主的・弾力的に決定すべきものであり、国が地方公務員の給与削減を強制することとは、地方自治の根幹に関わる問題であります。そのため、地方の固有財源である地方交付税を減額するという手段は断じて認められません。

地方自治体は、職員給与の独自削減、職員数の大幅な削減、行政機能のアウトソーシングなど、様々な行革努力を国に先んじて推し進めてきました。その自治体の努力を政府は考慮すべきであります。

本来、給与は地方公務員法により、個々の自治体の条例に基づき、自主的に決定されるものであり、その自主性を犯すことは断じて認めることはできません。

今後、ラスパイレス指数のあり方を含め、給与と手当の総合的な比較を行い、早急に「国と地方の場」等において十分協議することを要望します。

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、

総務大臣、内閣官房長官

Q 東海林議員

町内には20人以上の宴会を開ける場所が少ないことから、温泉を適当な場所として認めているので、料理の内容を改善して運営すべき。

営業日数を減らして赤字を減らすというのは逆ではないか。今年の正月も休館していたが、町民には極めて不評であった。せめて、入浴、食堂は営業すべきと思う。

A 野邑町長

料理の改善は役員会の都度指導している。休館日については、過去3年間の実績により、極めて利用客が少ないことから設定した。

温泉を継続させたいとの思いで、今年1年間努力をして運営したい。

**報告第4号 有限会社中頓別振興公社の経営状況**

寿レクリエーション施設、一般廃棄物処理施設、鍾乳洞ふれあい公園、国保病院管理清掃業務等を営む同社全体の平成24年度経営状況は次のとおりです。当期純利益が27万円となりました。

●損益計算結果、貸借対照表

- ・収益合計 63,717,271円
- ・費用合計 63,213,801円
- ・営業利益 503,470円
- ・当期純利益 265,667円
- ・資産合計 17,816,627円
- ・負債合計 3,114,866円
- ・純資産合計 14,701,761円

**報告事項**

※ 繰越明許費（くりこしめいきよひ）は、予算に計上されているが、年度内に支出が終わらないと見込まれるものについて、予算に定めることにより、翌年度に繰り越して支出することができるものです。

報告第2号 平成24年度一般会計繰越明許費繰越計算書

平成24年度から25年度に次の事業予算が繰り越されました。

(単位：千円)

事業名	繰越金額
町道6丁目線交付金事業	45,300
町道10丁目線交付金事業	26,968
合計	72,268

※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

報告第3号 中頓別観光開発株式会社の経営状況

ピンネシリ温泉の平成24年度決算は、前年度に比べ入館者で2,445人減少、宿泊者で935人減少。当期純損失が443万円となりました。

●損益計算結果、貸借対照表

- ・収益合計 31,141,994円
- ・費用合計 36,399,782円
- ・営業損失 5,257,788円
- ・当期純損失 4,429,489円
- ・資産合計 11,567,791円
- ・負債合計 5,862,701円
- ・純資産合計 5,705,090円

●利用状況

- ・宿泊者数 2,395人（前年比71.9%）
- ・入館者数 10,802人（前年比81.5%）
- ・会食利用件数57件（前年比107.5%）、利用人数1,076人（前年比107.6%）

●主な質疑**Q 柳澤議員**

平成24年度において、資本金1,000万円の約半分429万円を取り崩した。平成25年度予算においても収入・支出とも非常に厳しく想定しているが、達成できるのか。また、会食料理に改善を要すると思うが、今後のピンネシリ温泉のあり方をどう考えるか。

A 野邑町長

数年前から町内の工事が減少して宿泊客が減少している。また、客室にトイレ、洗面所がないことが他の宿泊施設と比較し条件が悪い。

厳しい経営環境ではあるが、閑散期の休館日を増やすなど経費の削減に努力をすることを今年の営業方針としている。

議員だより

～私の思い～

このコーナーは、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて思いを綴るものです。

『定例会を終えて』

中頓別町民間賃貸住宅建設促進助成条例は、なぜ「工事費」を補助金算定の基礎としたのか。

個人の住宅建設促進助成条例は、あくまで建物の「評価額」です。税務職員が評価した建物の価格で補助金額が決まります。

「工事費」は、建設業者によってまちまちです。基準が緩く、現実的な厳しい言い方をすれば水増しも可能だということになります。個人の住宅のように、公正な「評価額」に対して助成するよう、条例を改正する必要があると思います。

実際に適用の話が出てきて、たいへん意図的な計画になっているのではと感じています。

また、今回の民間アパート予定地となっている旧営林署横の敷地内には、立派な檜の木があります。私も小さい頃、どんぐりを拾いにいった思い出の木です。いまでも子供達がその実を拾いにいくのだということを聞いて、懐かしさと淋しさ、複雑な思いを抱きました。

ジブリ映画「となりのトトロ」に登場するような大木で、何かを訴えているように感じます。新所有者の方にも、「保存」という粹な計らいを望みます。

長い間、中頓別町の歴史を見守ってくてくれた貴重な存在だと思います。この町の次代を担う子供達が、同じ場所ですぐぐりを拾い成長する姿を、この木と一緒に私もずっと見ていたい。

(綴人：宮崎泰宗)

議決された条例・補正予算

○承認第1号 条例の一部改正

地方税法の一部を改正する法律等の改正に伴い、寄附金控除の特例等を改正するものです。

○承認第2号 国民健康保険条例の一部改正

地方税法の一部を改正する法律の改正に伴い、軽減措置に係る基準額等を改正するものです。

○議案第40号 子宮頸がん・インフルエンザ菌b型(Hib)及び小児用肺炎球菌予防接種費用助成に関する条例を廃止する条例

予防接種法の一部を改正する法律により、定期の予防接種(A類疾病)となったことから廃止するものです。

○議案第41号 戸籍事務の一部委託に関する協議

戸籍の電子化、事務の電算化を中頓別・豊富・浜頓別の3町の電子情報処理組織により共同利用するため、規約を定め、管理・執行に関する事務を浜頓別町に委託するものです。

○議案第42号 北海道市町村総合事務組合規約の変更

構成団体に加入があつたことによる変更です。

○議案第43号 北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

構成団体に加入があつたことによる変更です。

○議案第44号 平成25年度一般会計補正予算

歳入歳出に1千636万円を追加。総額は28億4千239万円に。

歳出では、総務費で、東日本大震災子ども支援プロジェクト実行委員会補助金78万円(企画費)、観光看板整備工事50万円(社会資本整備総合交付金事業費)を計上。

衛生費では、合併処理浄化槽設置整備補助金81万円を計上。

農林水産費では、酪農研修生受入住宅改修事業補助金165万円(農業振興費)、エゾシカ捕獲報償費210万円、捕獲補助金320万円(有害鳥獣対策費)を計上。

商工費では、観光ガイド養成支援委託料170万円を減額し、講師報償費、

旅費、消耗品費90万円、鍾乳洞案内看板修繕料16万円(観光費)を計上。

消防費では、消火栓、車両修繕費50万円、吏員待機宿舍浴室改修工事費250万円(南宗谷消防組合負担金)を計上。

諸支出金では、自動車学校の大型特殊教習車購入費441万円(特別会計繰出金)を計上。

○議案第45号 平成25年度自動車学校事業特別会計予算

歳入歳出に441万円を追加。総額は3千693万円に。

大型特殊教習車購入費441万円を計上。

議会の動き

4月

- 19日～22日
大崎上島町合併10周年記念式典
(広島県)
中頓別故郷会(東京都)
- 26日 中頓別町観光協会通常総会
- 27日 中頓別町自衛隊協力会通常総会

5月

- 1日 鍾乳洞安全祈願祭
- 12日 中頓別町クリーン作戦
- 15日 中頓別町農業協同組合通常総会
- 16日 町民交通安全大会
中頓別町商工会通常総会
中頓別町育英会総会
- 17日 中頓別観光開発株式会社定時株主総会
- 19日 中頓別消防団春季消防演習
- 26日 中頓別中学校運動会
- 28日 中頓別町戦没者慰霊祭
- 30日～31日
宗谷管内町村議会議員研修会(利尻町)

6月

- 2日 鍾乳洞祭り
- 3日 議会運営委員会
- 5日～6日
北海道町村議会議長会第64回定期総会
(札幌市)
- 7日 議会運営委員会
- 9日 中頓別小学校運動会
- 10日 天北線代替輸送連絡調整協議会総会及び稚内音威子府間「命をつなぐ街道」整備促進期成会総会(浜頓別町)
- 16日 名寄駐屯地創立60周年記念行事
(名寄市)
- 17日 第2回定例会
- 21日 柴中医師、杉澤歯科医師歓迎会
- 22日 こども館運動会
- 27日～28日
北海道町村議会議員研修会(札幌市)
- 29日 旭台夏祭り

《管内議会議員研修会に参加して》

宗谷管内町村議会議員研修会が、5月30日利尻町交流促進施設「どんと」で開かれ、全議員が参加しました。

管内9町村から集まった81名の議員を前に稚内市教育委員会社会教育課主査市川和正氏が「私の見た南極 ～みんなにできること～」と題して講演を行いました。第52次日本南極地域観測隊員として平成22年11月から24年3月まで貴重な南極体験をした稚内人です。

講演時間は1時間30分、汗をかきながらも静かなトーンと柔らかな雰囲気です話をさせていただきました。プロジェクターで南極の写真や動画、グラフなどを写し、講演中の全ての時間を視覚化していましたので、映像だけでも楽しめたと思います。また、最後の5分間は美しいオーロラの映像を音楽に乗せて見ながら終了しました。

南極に暮らすアザラシやペンギンのあどけない姿に感動し、文明生活が排出したフロンガスが南極上空のオゾンホールを拡大し、二酸化炭素など温室効果ガスが温暖化の原因となっているという地球の危機を身近に感じました。増えすぎた二酸化炭素を少しでも減らすため、自分にできるエコ生活をがんばろうという気にさせていただきました。

環境にやさしい再生可能エネルギーの活用が世界中で取り込まれていることは非常に良いことであり、この宗谷地域でも風力発電のための風車があちこちで見受けられるが、風車が増えれば壊す自然もある。雄大な自然を大切にしてきた宗谷の景観が変わっても良いのかという問題提起もされました。

最後に、「何でも思い切りやる」、「一人で悩まない、助けてくれる仲間がいる」といった言葉が、私のこれからの議員活動にも通じる言葉として強く印象に残った研修会でした。

(報告者：細谷久雄)

編集後記

春からの天候不順が続きましたが、体調は、そして畑の作物や花はいかがでしょうか？これから秋にかけての好天を期待しましょう。

今年も8月1日から11日までの期間、福島県の子どもたちを迎えて「北のてっぺん・そらや自然学校で夏休み」が開催されます。6月定例議会で関連の補正予算78万円が全会一致で可決されました。

被災地の子どもを道内に受け入れる各支援団体の保養プログラムが、行政の補助や寄付の減少で運営資金が不足し、受け入れ人数を減らしたり、実施期間を短縮するケースが続出しているとの報道を目にして、来町する13人の子どもたちには、涼しく、自然豊かな中頓別での夏休みを満喫してほしいと願っています。

東京電力福島第1原発事故の原因究明もされない中、いまだに15万人を超える人たちが避難し、増え続ける汚染水の処理もままならず、危険な状況が続いています。

原発企業の利益を優先する輸出、稼働推進は、原発ゼロを願う被災者、国民の気持ちを逆なでするものではないでしょうか。

議会だよりをお読みになりましたら、感想・ご意見などお近くの議員または議会事務局までお寄せいただきたく、よろしくお願いたします。

議会広報編集特別委員会(本)